

研究主題

自ら判断し、よりよく行動しようとする子どもの育成

～金銭教育を取り入れた授業づくり～

○児童の実態から

本校には、外国籍の児童や外国にルーツをもつ児童が多く在籍している。また、様々な特性をもつ児童も多く、様々な家庭環境の中で自信がもてず、自己肯定感がとても低い児童も多いと感じる。学習や日常生活の中で、自ら判断して行動せずに、すぐに教師や友達に助けを求めて課題を解決している実態も見受けられる。本校の教育目標である、「生きる力を備えた子どもの育成」を達成するためには、様々な関わり合いの中から、自ら判断することや、これまでの経験から得たものを生かしてよりよく行動しようとする態度を身に着けさせることが必要であると感じる。

また、本校でこれまでに研究してきた「ユニバーサルデザイン」の視点を生かした授業づくり「新田スタンダード」の徹底と、効果的な ICT 活用を取り入れた授業づくりに継続して取り組み、全ての児童にとって、学ぶことへの安心感、楽しさにもつなげていく。その手段の一つとして、今年度は「金銭教育」を取り入れた授業づくりに全校で取り組んでいく。

○金銭教育との関わりから

昨年度、金銭教育の取り組みの中からみられた本校の実態は以下の通りである。

- ・高額のお金をもらう児童がいること
- ・定期的ではなく、買いたい物がある時にお小遣いをもらう児童が多いこと
- 決まった額の中から計画的に使用しているわけではない。
- ・管理していると答えた児童は7割いるが、お小遣い帳をつけている児童が少ない（3割）
- 今ある額からただ欲しいものを買っている。
- ・お金の大事さはわかっているが、行動には結びついていないこと
- 大事と答える反面、課金に高額を使用する児童も多い。
- ・キャッシュレスなどの意味を理解している児童が少ないこと
- 正しいお金の知識が身につけていない。

上記のことから、新田小の児童は、ニーズ（必要としているもの）ではなく、ウォンツ（欲しいもの）に対してお金を使用する傾向がわかった。「今欲しいから買う」ではなく、「本当に必要なのか、金額は妥当なのか」などの判断をしてから購入するという意識をもたせたい。

新田小は「金銭教育」をすすめていくのだが、金銭教育とは、「金銭や物に対する健全な価値観の養成」を目標としている。この金銭教育を通して育てたい力として、①正しいお金の知識②正しいお金の使い方③正しい金銭感覚が挙げられる。この力を育てることができれば、金銭教育の目標を達成することができ、研究主題にもある「自ら判断し、よりよく行動しようとする」が自然とできると考える。

様々な授業実践の中に、金銭教育を取り入れた授業づくりを行い、「生きる力を備えた子どもの育成」に迫っていく。

研究構想

学校教育目標

～生きる力を備えた子どもの育成～

○たくましく ○やさしく ○かしこく ○うつくしく

めざす児童像

- 健康や安全に気をつけ、進んで生活する子ども
- 自他を思いやり、豊かで安らかな心をもつ子ども
- 課題をつかみ、解決に向けて主体的に学ぶ子ども
- 自己有用感をもち、行動できる子ども
- 将来への夢と希望をもつ子ども

研究主題

自ら判断し、よりよく行動しようとする児童の育成
～金銭教育を取り入れた授業づくり～

各教科との関連

授業実践

金銭教育

誰もが安心できる居心地のよい『学級経営・学級づくり』

*研究や授業づくりの基盤！

新田小学校の児童の実態をふまえ、「新田スタンダード」「甲府スタイル」を全員で実践し、学習規律を整え、落ち着いて学習に向き合えるような学級づくりに力を入れる。

金銭教育全体計画

憲法
教育基本法
学校教育法
県指導重点
市指導重点

学校教育目標
生きる力を備えた子どもの育成
〇たくましく 〇やさしく 〇かしこく 〇うつくし

児童の実態
地域の実態
保護者の願い
社会の願い

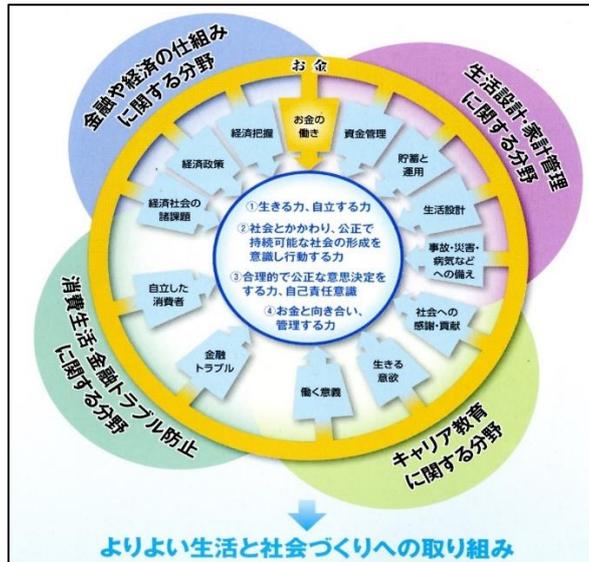
金銭教育の目標
金銭や物に対する健全な価値観の養成

金銭教育を通して育てたい力
〇正しいお金の知識
〇正しいお金の使い方
〇正しい金銭感覚

低学年のめあて	中学年のめあて	高学年のめあて
<ul style="list-style-type: none"> 〇ものやお金の大切さに気づくことができる。 〇正しいお金の使い方ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇ものやお金の価値について正しく考えることができる。 〇正しいお金の管理ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇ものやお金の価値を理解し、学習や生活に生かすことができる。 〇計画性をもってお金の管理をすることができる。

各教科	特別の教科道徳	総合的な学習の時間	特別活動
<ul style="list-style-type: none"> 教科の学習を通して知識や技能を身に付け、情報の理解や選択・処理・活用、計画性、意志決定の力を身につける。 金融の仕組みや経済活動等の実生活についての理解を深め、よりよく生活することに関心を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体の教育活動を通じて道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う。 道徳の授業を通して自己を見つめ、道徳的な価値観や判断力を養う。 お金やものを大切にしたり、働くことの大切さを理解したりする心情を養う。 決まりやマナーの必要性を理解し、よりよく生活するために進んで決まりやマナーを守ろうとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決するための資質や能力を育てる。 学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。 金融・金銭に関する知識や技能を活用し、課題解決や探究活動に取り組み、金銭に対する健全な感覚を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動や児童会活動を通して望ましい集団活動を展開する。 様々な活動を通して、心身の調和のとれた発達を図る。 人間的なふれあいを深め、自他の個性の発見と理解を図る。 様々な活動を通して、社会性の育成を図る。 諸活動に対して、自主的自発的に取り組む態度を育成する。

【金融教育の4つの分野と重要概念】



【金融教育プログラム 学校における金融教育の年齢別目標改訂版】より

分野目標		年齢層別目標			
		低学年	中学年	高学年	
A 生活設計・家計管理に関する分野	ア 資金管理と意思決定	使える資源には限りがある（予算制約）ことを理解する	<ul style="list-style-type: none"> ○ものやお金の価値を知り、大切に（生活、道徳） ○欲しいものをすべて手に入れることはできないことを知る 	<ul style="list-style-type: none"> ○ものやお金には限りがあることやお金の大切さを理解する（社会） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ものやお金には限りがあることを理解し、よりよい使い方を考える（家庭） ○お金の使い方について見直しながら、自ら節度を守り節制に心掛ける（道徳）
		限られた予算の下でよりよい生活を築く意義を理解し、実践する技能と態度を身に付ける	<ul style="list-style-type: none"> ○欲しいものが手に入らない場合に、がまんできるようになる ○予算の範囲内でものを買うことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○欲しいものと必要なものの区別ができる ○お金の適切な使い方を知ることを通じて節度ある生活の大切さに気づき、実践する（道徳） ○こづかいとしてもらったお金や使ったお金の記録をつけることなどを通じて、お金を管理する 	<ul style="list-style-type: none"> ○プリペイドカードなどは金銭同様に大切に扱う必要があることを理解する（家庭） ○必要性を考えて、計画を立て、それに沿って買い物ができる（家庭） ○商品の選び方を知り、工夫して買い物ができる（家庭）
		資金管理に関する意思決定の基本を理解し、実践する態度を身に付ける			<ul style="list-style-type: none"> ○お金の使い方について自分なりの考え方をもち、意思決定する態度を身に付ける

イ 貯蓄の意義と資産運用	貯蓄の意義を理解し、貯蓄の習慣を身に付ける	○こづかいやお年玉を貯めてみる	○貯蓄の意義を理解し、計画的に貯蓄する習慣を身に付ける	○将来何に使うかを考え、計画的に貯蓄する態度を身に付ける（家庭）
	期間と金利の関係、および貯蓄・運用を継続することの大切さを理解する			○金利計算(単利)などを通じて、主な預金商品とその利息の違いについて理解する
	金融商品のリスクとリターンを理解し、自己責任の下で運用する態度を身に付ける			
ウ 生活設計	生活設計の必要性を理解し、将来を展望した自分の生活設計を立てることができる	○こづかいの使い方を通して計画的に買い物をするための大切さに気付く	○計画的にお金を使うことの大切さを理解し、実践する態度を身に付ける	○将来を考え金銭を計画的に使う態度を身に付ける（家庭）
	生活設計に必要な様々な知識を身に付け、それを活用して自分の暮らしを考える			○国などの政治の働きの一つとして社会保障があることを知る（社会）
	生活設計と職業選択を関係付けて自分の将来を現実的に考える			
エ 事故・災害・病気などへの備え	日常生活における危険から身の安全を確保する方法を理解し、実践する	○身の回りの危険に気付き、安全に生活することの大切さを理解し、行動する（生活、道徳、特別活動）	○日常生活には様々な事故や災害、病気に見舞われる可能性があることを理解し、行動する（社会、道徳、特別活動） ○事故や災害の防止に関する人々の工夫や努力について理解する（社会）	○日常生活には様々な事故や災害、病気に見舞われる可能性があることを理解し、行動する（社会、道徳、特別活動） ○事故や災害の防止に関する人々の工夫や努力について理解する（社会）
	他人に損害を与える可能性を認識し、安全な行動を心掛ける		○日常生活の中で人にけがをさせたり、人の物を壊したりする可能性があることに気付き、注意する	○自転車の運転などを通じて、自分が人にけがを負わせたり、人の物を壊したりした場合の影響を考え、気を付けて行動する
	事故や災害、病気など不測の事態に備える必要性とその方法を理解する		○事故の防止や災害への蒔苗が必要であることを理解する	○修学旅行などでの事故や病気に備えて、保険をかけていることを理解する○不測の事態に備える方法として貯蓄以外に保険があることを理解する

日金融や経済の仕組みに関する分野	ア お金や金融の働き	お金の働きや役割を理解する	○ものやサービスを購入するとき、お金を払う必要があることを理解し、実際にもものやサービスを購入する ○硬貨と紙幣の違いに気付く	○お金は貯めて将来使えることを理解する	○暮らしを通じてお金の様々な働きを理解する
		金融機関の役割、中央銀行の機能について理解する		○地域には銀行などの金融機関があることを理解する（社会） ○銀行にお金を預けると利息がつくことを理解する	○預金、貸出等の銀行の基本的機能について理解する
		金利の働きについて理解する			
	イ 経済把握	ものやお金の流れと家計、企業、政府等の役割について理解する		○地域の生産活動を調査し、ものやお金の動きを理解する（社会） ○農家や工場、商店の働きや役割を理解する（社会）	○家計、企業、政府、銀行の間のものお金のやりとりについて理解する ○農業、水産業、工業で働く人々の工夫や努力について、価格や費用を含めて理解する（社会）
		市場の働きや機能を知り、市場経済の意義を理解する	○ものとお金は交換されることを知る	○消費者がものの値段を一つの目安として購入することを踏まえ、販売の仕事をする人は値段の付け方を工夫していることを理解する（社会） ○栽培したものや製作したものの値段の決め方を理解する	○ものの値段が変わることを理解する（社会）
		産業の発展と海外経済との関係について理解する			○海外との間のものお金のやりとりについて理解する（社会）
	ウ 経済変動と経済政策	景気の変動と物価、金利、株価等の関係を理解する			
		中央銀行の金融政策について理解する			
		政府の役割について理解する	○公共施設などの利用にはお金が必要となることに気付く	○社会を支えている様々な公共活動とそれに必要なお金について理解する	○税金の主な種類とその意義、ならびに納税が国民の義務であることを理解する（社会）
		景気変動や経済政策と自分の暮らしや社会との関係を理解する		○地域の生産活動と自分の暮らしとの関係を理解する（社会）	○地域の生産や販売活動の変化が暮らしや社会に与える影響を理解する（社会）

エ	経済社会の諸課題	経済社会が抱える問題について幅広く関心を持ち、情報収集の技能を身に付ける			○自分の暮らしと関連付けながら社会で起こっている問題に関心をもつ
		経済社会の課題解決に向けて合理的・主体的に考える態度を身に付ける			
C 消費生活・金融トラブル防止に関する分野	ア 自立した消費者	消費者の権利と責任について理解し、それを生かす態度を身に付ける			○買い物の仕組みと消費者の役割が分かる（家庭）
		自立した消費者として行動するための基礎知識と態度を身に付ける	○目的を考えてものを選んで買うことができる	○目的や価格を考えてものを選んで買うことができる ○安全や環境に配慮した消費生活の大切さに気付く	○ものの選び方、買い方を考え、適切に購入する能力を身に付ける（家庭） ○売買契約の基礎を理解する（家庭） ○安全や環境に配慮した消費生活の大切さを理解し、工夫する（社会、家庭）
		消費生活に関する情報を収集し適切に活用することができる技能を身に付ける			○消費生活に関する情報を活用し、比較・選択する力を身に付ける（社会、家庭）
イ 金融トラブル・多重債務		消費者問題の発生する背景について理解し、お金との付き合い方について日頃から考える態度を身に付ける			○お金のトラブルは家族に迷惑をかけることを知り、気を付けるようにする
		金融トラブルや多重債務の実態を知り、巻き込まれない態度を身に付ける		○子ども同士でお金の貸し借りはしないようにする	○小学生が巻き込まれる金融トラブルの実態について知り、注意する ○インターネット、携帯電話による小学生のトラブル事例を学び、予防の仕方を理解し、適切に行動する態度を身に付ける
		法律や制度を知り、それらを活用して事態に対処できる知識と技能を身に付ける		○困ったときにはすぐに身近な人に相談する態度を身に付ける	○消費生活センターの役割や連絡先、困ったときに消費生活センターに相談できることを知る（家庭）

D キャリア教育に関する分野	ア 働く意義と職業選択	勤労の意義とお金の価値の重さを理解する	○働く人々の素晴らしさに気付く（生活） ○家の手伝いや係活動をする事で役立つ喜びを知る（生活、道徳、特別活動）	○栽培活動等を通して働くことの喜びと大変さ、お金の価値の重さを理解する ○働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く（道徳、特別活動）	○働くことの大切さと金銭を得ることの苦勞が分かる（家庭、道徳、特別活動） ○働く権利と義務について理解する（社会） ○働くことを通して社会に役立っていることを理解する
		自分の職業選択について主体的に考える		○栽培したものや製作したものを販売する活動などを通して、仕事について考える ○自分の長所・短所に気付き、よい所を伸ばす（道徳）	○自分の長所・短所を見つけ、将来就きたい職業について考えてみる（道徳、特別活動）
		労働者の権利と義務について理解し、それを生かす態度を身に付ける			
	イ 生きる意欲と活力	付加価値を生み出すために様々な努力が必要であることを理解する	○お店の人の工夫や努力に気付く（生活）	○商店の人の願いを知り、様々な苦勞や工夫をしていることに気付く（社会）	○産業に従事している人々は、工夫や努力をしてよりよい製品を生み出していることを理解する（社会）
		付加価値の創造が経済社会発展の原動力であることを理解する			
		自らの夢を描き実現の方法を考え、実現に向けて努力する態度を身に付ける			○自らの夢を描き実現に向けて努力する態度を身に付ける（道徳、特別活動）
	エ 社会規範の理解	社会との様々なつながりを理解し、ルールを守り、他人に感謝する心を養う	○日頃世話になっている人々に感謝の気持ちをもつ（生活、道徳） ○約束を守ることの大切さに気付く（道徳）	○生活を支えている人々に尊敬と感謝の気持ちを持つ（道徳） ○きまりを守ることの大切さを理解し、実践する（社会、道徳）	○生活を支えている社会に対する感謝の気持ちをもつ（道徳） ○法やきまりを守る意識をもち、実践する（道徳）

	<p>よりよい社会を築くためにみんなで協力することの意味を理解し、何ができるかを考え実行する態度を養う</p>	<p>○友達と協力して活動しようとする（生活、道徳、特別活動）</p> <p>○家の手伝いや係活動を通じて自分の役割を考える（生活、道徳、特別活動）</p>	<p>○みんなで協力して働くことの大切さを理解し、実践する（家庭、道徳、特別活動）</p> <p>○地域や社会のための活動（ボランティア等）の存在や内容を知り、または体験することを通じてその意義に気付く（道徳、特別活動）</p> <p>○持続可能な社会の構築の視点から、自分のものやお金の使い方が社会や環境に与える影響について考え、工夫する（家庭）</p> <p>○実社会の様々な分野で働く人々が自分たちの生活に重要な役割を果たしていることを社会の一員として考え、協力しようとする気持ちをもつ（社会）</p>
--	---	--	--

研究計画

1	4月30日（火）	研究の方向性，研究主題，授業者決定
2	5月28日（火）	研究内容，組織決定，実践について
3	6月11日（火）	学習会、指導案について等
4	7月22日（月）	I C T研修
5	9月17日（火）	公開授業指導案検討（秋澤先生来校）
6	10月15日（火）	公開前の最終確認、指導案検討
7	10月25日（金）	金融教育公開日

8	11月25日(月)	公開のふり返り
9	12月23日(月)	研究紀要作成について
10	1月28日(火)	研究のまとめ、紀要について
11	2月18日(火)	研究のまとめ、来年度の方向性について

組織

<p>○高学年ブロック</p> <p>6年：新井先生(授業者)</p> <p>5年：内海先生</p> <p>4年：藤原先生</p> <p>ひまわり：丸山先生</p> <p>サポート：◎古屋先生・智先生</p> <p>教務：教頭先生 里吉先生</p> <p>米長先生 保坂先生</p>	<p>○低学年ブロック</p> <p>3年：小坂(授業者)</p> <p>2年：向山先生</p> <p>1年：中内先生</p> <p>たんぽぽ：耕平先生</p> <p>サポート：米山先生</p> <p>教務：校長先生 ◎清水先生</p> <p>小澤先生 石原先生</p>
---	---

◎・・・ブロック長

※この組織の他に、今年度は、環境整備部を新設します。

金銭教育に関する掲示物やポスター、書籍等の紹介など、学校内の環境を整備していただきたいと思えます。

<p>○環境整備部</p> <p>◎丸山先生 智先生 晃先生 米山先生 今澤先生 里吉先生</p>
